

日間助教二人之ヲ引率シ京都大阪、奈良、三重ノ二府二縣ニ出張シテ視察研究ヲ爲サンメタリ

本校ニ於テハ生徒皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ関シテ申報スベキ事項ナシ

奨來施設上重要ト認ムル件

女子部新設ノ件〔大正十年度以降報告と〕
〔ほほ同文につき省略〕

圖書師範科教室新設ノ件〔昭和四年度報告と〕
〔同文につき省略〕

大講堂新設ノ件〔同右〕

本校付属奈良研究所設置ノ件〔大正十二年度報告とほ〕
〔ほ同文につき省略〕

雜件

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノノ中重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

依頼製作一覧

品目	数量	受託年度	竣工年度	依頼者
蒔繪書棚	壹箇	昭和四年度	昭和五年度	宮内省
置物飾棚	壹箇	昭和五年度	同	華族會館
花盛器	四箇	同	同	農林省
釣燈籠	壹對	同	同	宮内省 用度課長
御文付釣燈籠	壹對	同	同	宮内省内藏寮

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

學校近事 卷号 二八—八。S・五・三・一〇日

職員辭令

昭和五年一月十三日

教授 松岡 輝夫

歐米各國へ出張ヲ命ス(文部省)
同 年同月十八日

片岡照三郎

本校漆工科ニ課スル彫鏤實習ヲ一學期間(昭和五年一月ヨリ同年三月マデ)臨時囑託ス(本校)

同 年同月二十三日

雇 榎本龜次郎

同 年同月二十八日

助教授 松田 權六

同 山崎覺太郎

學術實地指導ノ爲神奈川縣へ出張ヲ命ス
同 年同月二十九日
但往復共一日間ノ事

教授 六角注多良

學術研究ノ爲愛知縣下へ出張ヲ命ス
同 年二月一日
但往復共一週間ノ事

教授 森田龜之助

同 年同月三日

校長 正木 直彦

教授 六角注多良

同 津田 信夫

助教授 海野 清

講師 香取秀治郎

工藝審査委員會委員被仰付(内閣) 第二部員ヲ命ス(商工省)

同 年同月十日

臨時雇ヲ命ス 但文庫掛勤務

兼田 稔

同 年同月十二日

紋勳五等授瑞寶章

教授 小林 萬吾

紋勳六等授瑞寶章(賞勳局)

教授 清水 龜藏

同 年同月十五日

紋正四位(宮内省)

教授 伯爵 平田 榮二

同 年同月十八日

依願日本畫科理事ヲ免ス

教授 松岡 輝夫

日本畫科理事ヲ命ス

助教授 小泉 勝爾

○松岡「輝夫」教授 歐米各國に出張を命ぜられたる松岡教授は二月二十五日(午前十時)東京驛出發二十七日神戸出帆の榛名丸に

搭乘渡歐せらる 巡歴地は伊太利、佛蘭西、獨逸、西班牙、英吉

利諸國にして其の各都市の美術館又は博物館に就て收藏の東洋古

名畫を涉獵して研究し且今春伊太利羅馬に開催さるゝ日本畫展覽

會の狀況を視察さるゝ筈なり 歸途北米に立寄り八月末迄には歸

朝さるゝ豫定なり。

○今「和次郎」講師 早稻田大學より在外研究を命ぜられ二月廿三日

日東京を發し三月一日下關より乗船さるゝ筈にて船は前記松岡教

授の乘らるゝ榛名丸なれば相互に同船の便宜あるべきことと思は

る 尙同氏の歐洲滞在は約一年間なり。

學校近事「二九一」。S・五・四・二五

○職員辭令

昭和五年二月廿八日

教授 岡田三郎助

歐洲各國へ出張ヲ命ス(文部省)

同 年三月六日

助手 内藤 春治

學術研究ノ爲富山縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

同 年同月十日

教授 島田 佳矣

教員檢定委員會臨時委員被免(内閣)

同 年同月十八日

書記 谷本千代雄

帝國美術院美術展覽會事務囑託ヲ解ク 帝國美術院書記ヲ命ス

(文部省)

同 年同月二十日

教授 六角注多良

學術研究ノ爲富山縣下へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 年同月二十二日

紋正七位(宮内省) 講師 香取秀治郎

同 年同月三十一日

書記 古田 坂松

昭和四年度物品出納検査官吏ヲ命ス

書記 芹澤 閑

本校主任收入官吏書記筒崎謙齋取扱ニ係ル帳簿金櫃ノ検査ヲ命ス

同 年四月四日

教授 六角注多良

生徒主事兼教授 鈴川 信一

助教授 田邊 孝次

同 小泉 勝爾

學術實地指導ノ爲奈良縣和歌山縣京都府へ出張ヲ命ス 但往復共十七日間ノ事

講師 齋藤 幸晴

助手 羽野 禎三

雇 宮坂福太郎

同 古宇田正雄

本校生徒修學旅行ニ付奈良縣和歌山縣京都府へ出張ヲ命ス 但往復共十七日間ノ事

同 年同月五日

教授 鈴川 信一

助教授 松田 義之

講師 岡田 起作

教員檢定委員會臨時委員被仰付(内閣)

同 年同月七日

鎌倉芳太郎

本校講師ヲ囑託ス 但風俗史授業擔任ノ事 美術史研究室勤務ヲ

命ス

○山崎〔寛太郎〕 助教授 二月中北豊島郡日暮里町日暮里一〇九七番地へ轉居

○三浦〔直政〕 助教授 三月中神田區猿樂町三丁目四番地へ轉居

○谷本〔千代雄〕 書記 三月中荏原郡目黒町中目黒一四九三番地へ

轉居

第三十九回卒業證書授與式

三月二十三日午前十時より本校大講堂に於て第三十九回卒業證書授與式を舉行す。第一號鐘にて新卒業生入場著席、第二號鐘にて職員及び參列舊卒業生著席、第三號鐘にて來賓著席、學校長の式辭に始まり、新卒業生に卒業證書並に卒業成績優秀者に賞與を授與し、學校長の告辭あり、尋で文部大臣の訓辭あり。

〔文部大臣田中隆三祝辭および卒業生総代詫摩日出男答辭省略〕

來賓、職員、舊卒業生、新卒業生順次に退場し、職員及び新卒業生は玄關前にて記念撮影を爲す。

卒業成績優秀に付き賞與者左の如し。〔省略。卷末表參照〕

卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	一七	〇	〇	一七
西洋畫科	四〇	〇	六	四六
塑造部	一二	八	〇	二〇
彫刻科	四	二	〇	六
木彫部	四	二	〇	六
建築科	七	〇	〇	七

圖案科	……一二	〇	……〇	一二
金工科	彫金部	……四	〇	……四
	鍛金部	……一	三	……〇
鑄造科	……五	〇	……〇	五
漆工科	……四	一	……〇	五
圖畫師範科	……二	〇	……〇	二二
合計	……一二八	一四	……六	一四八

卒業生姓名及卒業製作目録(席次イロハ順)

日本畫科

秋日村童圖	本科	五十嵐悌治(山形)
晚秋	同	飯島正義(茨城)
鳶もみぢ	同	小原尋(岡山)
露臺の女	同	横田良雄(宮城)
閑庭	同	高野喜一郎(栃木)
踊	同	山口達(福岡)
風景三題(風、雪、雨)	同	安川日露四(佐賀)
長崎港	同	福田福治(長崎)
眞鶴秋色	同	深尾廣道(群馬)
花と空と女	同	藤生宗三郎(群馬)
夏の海邊	同	安住長朋(東京)
日本橋	同	有賀威(東京)
薔薇	同	荒尾昌朔(石川)
言問橋の夕暮	同	網野亮俊(東京)

冬の日	同	宮澤勝(千葉)
志摩の濱島	同	南谷春雄(岐阜)
夏の花	同	末永光司(福岡)

西洋畫科

鏡と鏡奩	自畫像	岩崎勝平(埼玉)
婦人坐像	同	岩清水義見(和歌山)
少憩	同	井上修(廣島)
裸婦	同	新居武男(徳島)
老人	同	帆足保之助(大分)
裸婦	同	豊島猛(長崎)
新時代の女性	同	岡田秀雄(東京)
La Revue	同	小野佐世男(東京)
勞働者像	同	小黒武雄(新潟)
裸婦	同	小見辰男(群馬)
若い男	同	和田正夫(香川)
婦人像	同	渡邊力(東京)
裸婦坐像	同	中尾達(宮崎)
若者	同	中村茂雄(大阪)
紅い服	同	長原坦(岐阜)
S夫人	同	武川次辰(東京)
妹の像	同	武藤甲三(新潟)
坐像	同	打下武臣(廣島)
女	同	浦北勝二(三重)
裸婦	同	黒田清文(鹿児島)

R君の像	裸婦	裸婦	朱衣	裸女	勞働者	田舎娘	錢湯	裸婦	コスチニム	妹の像	無題	人物	勞働者	兄妹	裸の娘	壺と女	弟	N君の像	伊須氣余理比賣 <small>イヌケヨリヒメ</small>	拳闘	裸婦	臥婦	少女
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
黃述祚 <small>(朝鮮)</small>	宋秉敦 <small>(朝鮮)</small>	李海善 <small>(朝鮮)</small>	陳植棋 <small>(臺灣)</small>	進來哲 <small>(大分)</small>	須山計一 <small>(長野)</small>	周讓吉 <small>(愛媛)</small>	清水啓三 <small>(愛知)</small>	白澤禎 <small>(栃木)</small>	三井滋雄 <small>(東京)</small>	木下克巳 <small>(和歌山)</small>	木村郁太郎 <small>(和歌山)</small>	佐々木徳 <small>(廣島)</small>	小松益喜 <small>(高知)</small>	上月順 <small>(大阪)</small>	松島淳一 <small>(靜岡)</small>	松平四郎 <small>(東京)</small>	松岡信治 <small>(埼玉)</small>	松尾隆成 <small>(福岡)</small>	柳生勇一 <small>(長崎)</small>	山崎坤象 <small>(東京)</small>	山口薰 <small>(群馬)</small>	矢橋六郎 <small>(岐阜)</small>	栗林東一郎 <small>(秋田)</small>
首	レリーフ	一、浴光 二、春聲	五、同 四、同 三、同 二、同	二、技巧の一部分 一、陽をむかふ	一、陽をむかふ 二、其 三、其 四、其	男立像	一、追考 二、首 三、胸像	一、幻影 二、彼 三、自像	馬 一、胸像 二、彼 三、自像	自像	自像	三、佛心 四、首	伸 一、佛心 二、池野君の首	一、心 二、首	五、自刻像 四、支那服の少女 三、少女像	一、ワルツの始め 二、妹尾氏の首	一、立像 二、首	姉	三、小品 二、群像の一部	一、淵 二、群像の一部	彫刻科	裸婦	友人の家
同	同	同	同	同	選科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
山田節夫 <small>(廣島)</small>	野村公雄 <small>(福井)</small>	中川爲延 <small>(廣島)</small>	成島勇太 <small>(東京)</small>	池野和一 <small>(新潟)</small>	須藤徳久 <small>(島根)</small>	鈴木達 <small>(北海道)</small>	三井高義 <small>(東京)</small>	坂田芳信 <small>(石川)</small>	河内山賢祐 <small>(山口)</small>	古賀忠雄 <small>(佐賀)</small>	安田周三郎 <small>(東京)</small>	中島浩 <small>(滋賀)</small>	吉開伊喜藏 <small>(福岡)</small>	濱田辰雄 <small>(愛媛)</small>	生島軍治 <small>(兵庫)</small>	五辻勉 <small>(京都)</small>	熊汝梅 <small>(支那)</small>	許達 <small>(支那)</small>	許達 <small>(支那)</small>	許達 <small>(支那)</small>	許達 <small>(支那)</small>	許達 <small>(支那)</small>	許達 <small>(支那)</small>

立てる女

同 下谷 貞一 (東京)

靖

同 廣井吉之助 (新潟)

一、虚心像 二、自像
三、本坊氏像

同 岸崎猪之助 (京都)

木彫部

一、佛像 二、裸婦立像

本科 川崎 榮一 (宮城)

わらわら

同 朽木 收吉 (富山)

蛙

同 松本 重美 (高知)

壺を持つ女

同 鈴木三郎助 (東京)

辻説法

同 飯塚 悌三 (宮城)

裸婦

同 長谷川 宏 (新潟)

建築科

Alpine Club

本科 小川 洋吉 (兵庫)

Restaurant

同 内藤 三雄 (東京)

商船學校

同 山本 勝巳 (石川)

新聞社

同 海老原一郎 (東京)

辨天堂

同 鈴鹿 正穂 (東京)

病院

同 廣瀬 初夫 (大阪)

Sports Club

同 小幡 昊 (東京)

圖案科

五種の寢室圖案 (A.B.寝るのみの寢室、C.D.居間を兼ねた寢室、E.晝はサンルームと休憩所に充つる寢室)

本科 橋本 貫一 (大阪)

立禮式抹茶各種器具圖案

同 西田 敷 (石川)

遊覽飛行船内部裝飾圖案

同 戸田 芳鐵 (岐阜)

(食堂、寢室、娛樂室)

同 岡田喜三郎 (東京)

化粧鏡及用器各種圖案

同 岡田喜三郎 (東京)

電燈器具各種圖案

同 織田 七郎 (香川)

絨氈、卓子掛クッション圖案

同 河畑 光三 (石川)

染織刺繡應用衝立圖案

同 玉生 寛治 (富山)

裝飾文様圖案十種

同 松野憲之助 (神奈川)

小住宅内部裝飾圖案 (書齋、食堂、子供室)

同 小西 秀元 (石川)

染織應用裝飾圖案

同 里見 駿吉 (石川)

舞臺裝置及衣裳圖案 (ヘツベル作ニール、ゲン物語による)

同 尾藤 知明 (東京)

書齋裝飾圖案

同 須貝 昇 (青森)

金工科

彫金部

花瓶 (第三)

本科 鴨 政雄 (香川)

置物 (犬)

同 山脇 洋二 (東京)

花瓶

同 松井憲太郎 (静岡)

八角花瓶

同 古橋 茂 (愛知)

鍍金部

皿

本科 中島 正雄 (群馬)

水指

選科 大谷 健三 (愛媛)

壺 (魚)

同 秋田頼一郎 (群馬)

花盛器

同 湯川 豊 (東京)

鑄造科

花盛

本科 濱本助千代 (香川)

橋柱の照明裝置

同 高木勝四郎 (香川)

照明のある時計臺

同 詫摩日出男 (東京)

談話室用の喫烟具

同 小泉 清一 (岸手)

月の間 (日本畫)

福島縣立喜多方高等女學校

瓦斯ストーヴ

同 森 新一 (石川)

漆工科

習作 (西洋畫)

朝鮮平壤公立高等女學校

飾 筐

本科 堀 修 (廣島)

同 (西洋畫)

片岡 龍也 (熊本)

果物鉢

同 海老塚四郎 (神奈川)

同 (西洋畫)

秋田縣立能代中學校

煙草棚

同 川村 源 (東京)

同 (西洋畫)

吉川 育次 (埼玉)

衝 立

同 安倍 郁二 (岩手)

同 (西洋畫)

未定

手箱

選科 長谷川章吾 (新潟)

同 (西洋畫)

大家 成哉 (高知)

圖畫師範科

繪畫成績品並配當先次の如し

クルペー筆摸寫 (西洋畫) 東京府立第六高等女學校

同 (西洋畫)

大阪市立西華高等女學校

ポツチエリ筆摸寫 (西洋畫) 鹿兒島縣立指宿中學校

岩瀬富士雄 (新潟)

同 (西洋畫)

高田 克己 (福岡)

習作 (西洋畫) 三重縣立富田中學校

伊藤 武夫 (大分)

憩ひ (日本畫)

石川縣女子師範學校

習作 (西洋畫) 池之上秀志 (鹿兒島)

池之上秀志 (鹿兒島)

習作 (西洋畫)

根本 義康 (茨城)

同 (西洋畫) 宮崎縣立飨肥中學校

出水 勝利 (宮崎)

同 (西洋畫)

工藤 正義 (青森)

同 (西洋畫) 朝鮮咸興公立高等女學校

日置加賀夫 (石川)

同 (西洋畫)

藤原徳太郎 (北海道)

同 (西洋畫) 沖繩縣立第三中學校

陳 承 潘 (臺灣)

同 (西洋畫)

神奈川縣立川崎中學校

同 (西洋畫) 未定

未定

同 (西洋畫)

小關 利雄 (秋田)

同 (西洋畫) 未定

未定

同 (西洋畫)

金道 卿 (朝鮮)

同 (西洋畫) 未定

未定

同 (西洋畫)

三浦 次郎 (東京)

同 (西洋畫) 未定

未定

同 (西洋畫)

未定

同 (西洋畫) 未定

未定

同 (西洋畫)

未定

同 (西洋畫) 未定

未定

同 (西洋畫)

未定

同 (西洋畫) 未定

未定

同 (西洋畫)

未定

同 (西洋畫)

關東廳旅順第一中學校

溝田 豐(長崎)

同 (西洋畫)

未定

水野 一好(愛知)

夕暉(西洋畫)

茨城縣立水戸商業學校

宮崎 央(千葉)

新入學生姓名

日本畫科(イロハ順)

萩尾 貫一	西村 四郎	堀 秀雄	小川 壽一
岡田 昇	河部 貞夫	川崎 雅	加島 一郎
田村 基	竹内 喜一	中井 芳郎	南部 正一
倉島千曲馬	山口 光輝	丸山 福太	蒔田 英一
小寺 禮三	榊原考一郎	木村 傳	水谷 隆
三浦 善作	平井 徳男	清野 覺二	
井上 卓雄	井上 自助	井手 宣通	細田 浩
土肥原三千喜	千葉 衛	大畑 實	大貝彌太郎
小川原 脩	岡村 義郎	大川 武司	小倉 猛熊
奥 正敏	吉田 富美	田尻 重太	高橋 道雄
高島 恒茂	高山 世繼	副島 秀生	坪内 正
辻 良雄	綱島 廉	上原 之節	熊野 禮夫
具嶋 三男	松平 康南	益山 英吉	房野 徳夫
布施 浩	河野 通暢	洗 春海	荒川俊一郎
佐藤 武雄	北島 達夫	三輪 孝	三好 正直

三井 正登 南 政善 宮崎 愿 白井 重義

白尾 三男 鈴木 慶

西洋畫科特別學生

林 乃幹 林 榮 俊 譚 顯 勳 鐘 惠 若

彫刻科塑造部(イロハ順)

西 常雄	大嶽 茂樹	大屋 義昌	黒川 泰
山本 四郎	藤井 正行	木場 春彦	有井 正二
三枝惣太郎	里見 親弘	北地 莞爾	木元 斌
石原 昂	渡邊 徹	植松 義廣	前田 保三
阿部喜三郎			

彫刻科塑造部特別學生

金 學 成

彫刻科木彫部(イロハ順)

岩佐 達藏	堀野 秀雄	大眉 克己	渡邊小五郎
加藤 泰三	加藤 誠爾	笠松 房七	三澤伊那雄
篠田 弘	鈴木 仁亮		
山田 鈺也	福田 良一	福島 葆光	相原 武
疋田玄二郎	洲之内 徹	鈴木 重雄	
涌波 達雄	柏崎 榮助	田中 雄三	坪内 敏雄
中川 清一	乗松 巖	山本 克己	矢守 二郎
松川 照二	小池岩太郎	小林 達雄	淺田 二郎

圖案科(イロハ順)

帝國美術院會員被仰付 内閣

同 年同月七日

教授 結城 貞松

助教授 小泉 勝爾

同 常岡 文龜

學術實地指導ノ爲神奈川縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

助教授 水谷 武彦

學術研究ノ爲京都府大阪府へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

同 年同月十三日

教授 島田 佳矣

學術研究ノ爲石川縣へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

○正木〔直彦〕校長 五月一日より和歌山縣滋賀縣新潟縣の各地方

に出張され六日歸京さる

○岡田教授〔三郎助氏〕歐洲各國内に現存する古壁畫研究の目的に

て歐洲に出張を命ぜられ約六ヶ月の豫定にて四月十九日東京出發

同月二十四日神戸解纜の鹿島丸に搭乗上程されたり 尙教授夫人

も同行相成りたり

○六角〔注多良〕教授 各科五年級生徒の春季修學旅行團の指導教

官として四月九日出發奈良縣各地及和歌山縣高野山等へ出張し同

月二十一日歸京さる

○鈴川〔信一〕主事 四月十六日出發奈良京都へ出張生徒旅行團に

中途より参加し六角教授と交代して其後の指導に當り同月二十五

日歸京す

○小林〔万吾〕教授 朝鮮美術展覽會審査員を囑託され四月二十七日出發渡鮮さる

○田邊〔孝次〕、小泉〔勝爾〕兩助教授 生徒修學團の指導教官とし

て四月九日出發奈良縣京都府及和歌山縣へ出張し同月二十五日に

歸京す

○齋藤講師〔幸晴氏〕並に羽野〔禎三〕助手宮坂〔福太郎〕金工科

勤務古宇田〔正雄〕會計掛も修學團引率の爲め四月九日より出張

二十五日歸京す

○小場〔恒吉〕講師 朝鮮總督府より囑託せられ居る古蹟調査の用

務にて五月三日出發渡鮮され京城總督府にて事務打合の上平安南

道江西郡江西邑に滞在同地方古墳の壁畫摸寫の作業に従事せらる

ゝ由 滞在期は約二ヶ月なり

○松田〔義之〕助教授 松垣〔靄雄〕助教授と共に圖畫師範科三年

生の修學團を引率指導の爲め四月二十四日出發京都大阪奈良三重

の二府二縣に出張し五月三日歸京す

○青山〔新〕助教授 昨年七月末に出發し歐洲内數ヶ國及び亞弗利

加の一部並に西部亞細亞地方等の旅程を歴破され多數の蒐集資料

を携へ五月六日無事歸京されたり

○筒崎〔謙齋〕書記 四月中本郷區根津片町六番地に轉居

學校近事〔二九—三〇〕S・五・七・五

○職員辭令

昭和五年五月二十二日

助教授 海野 清
學術研究ノ爲富山縣下へ出張ヲ命ス 但往復共六日間ノ事

同 年同月二十六日

文部省在外研究員

助教授 和田 季雄

英吉利國及伊太利國ヲ在留國ニ追加ス 文部省

同 年同月二十八日

教授 矢代 幸雄

獨逸國政府ヨリ贈與シタル赤十字第二等名譽章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル 賞勳局

學校近事 二二九―四。S・五・九・二五

○職員辭令

昭和五年六月二日

敘正五位 宮内省

同 年同月七日

除服出仕

同 年同月十三日

助手 深瀬 嘉臣

講師 齋藤 幸晴

同 年同月十四日

講師 津田 信夫

學術研究ノ爲京都府大阪府及富山縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一

週間ノ事

同 年同月十七日

依願解雇

同 年同月二十日

白濱 洵

本校漆工科ノ參考模本製作ヲ囑託ス

同 年同月廿八日

溝口 三郎

補帝國美術院附屬美術研究所主事 文部省

同 年同月三十日

學校長 正木 直彦

帝國美術院附屬美術研究所員ヲ囑託ス(主任)

(各通)

教授 矢代 幸雄

帝國美術院附屬美術研究所員ヲ囑託ス(經理部勤務) 文部省

講師 田中 喜作

大藏省ヨリ依囑ニ係ル議院建築裝飾扉製作主任ヲ命ス

助教授 青山 新

大藏省ヨリ依囑ニ係ル議院建築裝飾扉製作擔任ヲ命ス

教授 津田 信夫

臨時本校依囑製作事務ヲ囑託ス

除服出仕

講師 鈴木 清

依願解雇

講師 金澤 庸治

富田簇治郎

同 年七月一日

東京美術學校服務
陸軍歩兵少佐 石川 吉郎

敘勳四等授瑞寶章 賞勳局

教授 沼田勇次郎

本校生徒野營演習ニ付靜岡縣富士裾野へ出張ヲ囑託ス 但往復共四日間ノ事

同 年同月十一日

教授 松岡 輝夫

講師 齋藤 幸晴

帝國美術院會員被仰付 内閣

本校生徒野營演習ニ付靜岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 年同月十六日

生徒主事補 高橋 吉雄

同 年同月三日

學校長 正木 直彦

本校生徒水泳狀況視察ノ爲神奈川縣下へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

同 年同月廿一日

同 年同月四日

國際觀光委員會委員被仰付 内閣

教授 六角注多良

(各通)

教授 島田 佳矣

同 津田 信夫

同 清水 龜藏

本校生徒野營演習ニ付靜岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 石田 英一

(各通)

生徒主事 鈴木 信一

生徒主事補 高橋 吉雄

帝國美術院美術展覽會審査員被仰付 内閣

同 關野金太郎

本校生徒野營演習ニ付靜岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

同 年同月廿二日

教授 津田 信夫

依囑製作事業ニ關シ大阪市へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

日間ノ事

本校生徒野營演習ニ付靜岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 年八月十二日

教授 小堀 鞆音

同 年同月八日

敘勳三等授瑞寶章 賞勳局

同 年同月十四日

教授 鈴木 信一

助教授 松田 義之

講師 岡田 起作

教員檢定委員會臨時委員被免 内閣

同 年同月十八日

教授 森井 健介

實業學校卒業程度檢定委員ヲ囑託ス 文部省

同 年同月廿一日

書記 筒崎 謙齋

秋田縣へ出張ヲ命ス 但往復共八日間ノ事

○坂口〔朧〕助教授 六月中市外淀橋町角筈七六ニ轉居

○矢代〔幸雄〕教授 七月中荏原郡大井町金子山六二二六ニ轉居

○青山〔新〕助教授 七月中兵庫縣神戸市内へ本籍ヲ移轉サレタリ

(従前福岡縣在籍)

○常岡〔文龜〕助教授 七月十一日ヨリ九月十日迄暑休中兵庫縣柏

原町ニ歸省滞在

○杉田〔精二〕講師 七月二十日ヨリ同廿八日迄北陸地方へ旅行

○山崎〔覺太郎〕助教授 七月二十日ヨリ同廿八日迄富山、石川、

福井三縣下へ旅行

○久米〔桂一郎〕教授 暑休中靜岡縣田方郡海邊三津へ旅行滞在

○金澤〔庸治〕講師 後備役輜重兵少尉トシテ八月一日ヨリ三週間

近衛輜重兵大隊へ演習ノ爲ニ召集セラレ

○田邊〔至〕教授 八月一日ヨリ同末日迄長野縣上水内地方へ旅行

○正木〔直彦〕校長 八月七日ヨリ同二十日迄兵庫縣下へ旅行サレ

タリ

○西田〔正秋〕助教授 八月七日ヨリ同月末迄關西及九州地方へ旅

行

○田邊〔孝次〕助教授 八月初ニ南葛飾郡金町大字金町一〇七四へ

轉居

○鈴木〔信一〕主事 八月十二日ヨリ廿五日迄千葉縣興津町ニ旅行

滞在

○島田〔佳矣〕教授 八月中旬ヨリ十日間石川縣地方へ旅行

○松岡〔輝夫〕教授 今春二月末頃歐洲へ出張中ノ處歸途北米ニ立

寄り九月六日午後六時横濱着ノ大洋丸ニテ無事歸朝サル

○福岡〔縫太郎〕助手 白耳義國獨立百年記念トシテ同國首府ニ開

設ノ産業科學及應用科學萬國博覽會ニ日本漆工會ヨリ代表派遣者

トシテ出張セシメラル、コト、ナリ六月廿一日出發セリ 歸京ハ

九月末ノ豫定

○羽野〔禎三〕助手 八月中本郷區駒込蓬萊町四十八瑞泰寺内ニ轉

居

○筒崎〔謙齋〕書記 秋田鑛山専門學校内ニ於テ開會ノ直轄諸學校

會計事務協議會ニ出席ノ爲メ八月廿一日出發秋田市ニ赴キ同月卅

一日歸京ス

學校近事 〔二九一五。S・五・十一・一五〕

○職員辭令

昭和五年九月二十日

(各通)

助教授 高村 豊周
講師 杉田 精二

工藝部各科ニ課スル塑造實習授業擔任兼務ヲ命ス

同 年同月廿二日

教授 六角注多良

學術研究ノ爲富山縣下へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

講師 鈴木 清

依囑製作事業ニ關シ大阪市へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

同 年同月三十日

助教授 田邊 孝次

〔文章欠落〕
但往復共四日間ノ事

同 年同月十一日

教授 矢代 幸雄

歐洲各國へ出張ヲ命ス

同 年同月十五日

學校長 正木 直彦

敍勳一等授瑞寶章(賞勳局)

同 年十月二十日

(各通)

助教授 小泉 勝爾
助教授 常岡 文龜

學術實地指導ノ爲神奈川縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

助教授 西田 正秋

學術研究ノ爲京都府へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

同 年同月二十二日

(各通)

教授 島田 佳矣
教授 平田 榮二

學術研究ノ爲静岡縣下へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

助教授 三浦 直政

學術研究ノ爲静岡縣下へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

○森井〔健介〕教授 八月十八日付文部省より實業學校卒業程度檢

定委員を囑託せらる

正木〔直彦〕校長の勳一等進敍

正木校長は多年の勤勞により十月十五日勳一等に進敍せられ瑞寶章

を授與せられたり 當日校長は御召により參内し濱口〔雄幸〕首相

の侍立にて畏くも 陛下より勳章を御親授あらせられたりと承はる

洵に光榮至極のことと申すべし 勳一等を賜はる場合は親授式に

よる内規なるも種々の御都合上にて親授式を行はるゝは稀有の御事

と仄聞せり 又勳一等は宮中席次にて第一階に班することに定めら

れ内閣各大臣其他の親任官又は公爵及從一位の方々と同列さるゝこ

となり 現在東西兩京の帝大其他の帝大總長にして勳一等となり居

らるゝは北海道帝大總長佐藤昌介氏唯一人のみにて此外の單科大學

長及び八十に餘れる直轄諸學校中にも一人もなく今回吾校の正木校

長が挺進して此の光榮を拜享せらるゝに至りたる次第なり 尙又本

校にては十一月四日學校創立記念式を例年の通り舉行するにつき此の佳日を機とし其夕刻より職員一同上野精養軒に會集し正木校長を招請して祝賀の宴を開催したり

本校設置記念式舉行

十一月四日（火曜日）本校設置記念式を舉行したり 其式次第左の如し

一、午前十時第一號鐘にて生徒一同大講堂へ參集著席

一、第二號鐘にて職員卒業生大講堂へ參集

一、學校長式辭

次に餘興に移る

一、音樂 ハープ演奏 雨田外次郎氏

右了りて茶菓を呈したり

學校近事 〔二九一六。S・五・十二・一五〕

○職員辭令

昭和五年十一月六日

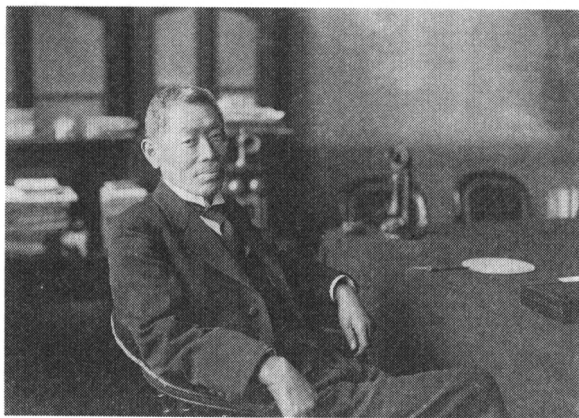
敍勳四等授瑞寶章 賞勳局

講師 鎌倉芳太郎

學術研究ノ爲京都府奈良縣兵庫縣へ出張ヲ命ス 但往復共一週間

ノ事

同 年同月八日



校長室の正木直彦

同 年同月廿五日

學術研究ノ爲香川縣及愛媛縣へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

教授 六角注多良

〔次号による訂正〕
〔主任〕

教授 六角注多良

助教授 松田 權六

同 山崎覺太郎

講師 吉野 富雄

同 澤口 悟一

大藏省ノ依囑ニ係ル帝國議會御座所莊飾製作事業擔任ヲ命ス

同 年同月廿七日

昭和五年度文部省視學委員ヲ囑託ス 文部省

同 年同月二十九日

教授 小林 萬吾

教授 長原孝太郎

六級俸下賜 文部省

教授 松岡 輝夫

伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「コンマンドール、クーロン」勳章ヲ受領シ及ビ佩用スルヲ允許セラル 賞勳局

同 年同月三十日

助手 福岡縫太郎

教務上ノ都合ニ依リ助手ヲ解ク

昭和五年十二月一日

教授 大島勝次郎

同 津田 信夫

同 清水 龜藏

同 矢代 幸雄

(各通)

陸絛高等官四等 内閣

同 年同月四日

故教授 長原孝太郎

絛正五位(十二月一日付) 特旨ヲ以テ位一級追陞セラル 宮内省

省

萩原 武人

東京美術學校雇ヲ命ス(教務掛)

○矢代「幸雄」教授 歐洲各國に出張を命ぜられたる同教授は十一

月九日東京出發西比利亞線經由にて歐洲に向はれたり 期間は九月にて明年七八月頃歸朝の豫定なり

○岡田教授(三郎助氏) 本年四月に出發し渡歐中の處十一月廿六日歸朝せらる

○長原「孝太郎」教授 十一月廿六日自宅にて突然腦溢血症を發し卒倒され、療養に手を盡されしも十二月一日遂に長逝せられたり、因に同教授は元治元年二月十六日美濃國大垣馬場町に生れ、明治十三年東京大學豫備門入學、同十五年同校退學後は、専ら繪畫の修業を志して同十六年故小山正太郎氏に就き洋畫を學ばれ、同廿二年帝國大學より理科大學雇を申付られ、同廿三年には理科大學助手に任ぜらる、更に同廿八年には故黒田清輝教授に就き洋畫の指導を受けられ、同卅一年には東京美術學校助教を兼任、同卅二年には本官を免ぜられて東京美術學校助教專任となり、次いで大正三年十月第八回文部省美術展覽會には西洋畫題殘雪が三等賞、同四年十月第九回文部省美術展覽會には西洋畫題晚春が二等賞となり、同五年東京美術學校教授に任ぜらる、爾來本邦西洋畫壇の重鎮として名聲愈々高く、同八年よりは帝國美術院美術展覽會審査委員として毎年多大なる功績を擧げられ、其の至高なる藝風は亦近年益々光輝を發するに至りたるに、急に今日忽然として長逝せられたるは、洵に悼惜の至に堪えざる次第なり。

○常岡「文亀」助教 下谷區上野櫻木町三六へ轉居

○松田助教(權六氏) 市外日暮里町渡邊町一四四へ轉居

○谷本「千代雄」書記 荏原郡入新井町字不入斗九五五へ轉居

○羽野「禎三」助手 豊多摩郡大久保町西大久保二七一へ轉居